

校長室から

東京都立武蔵野北高等学校

「武蔵野北に夢をのせて」

校長 鶴飼敦之

『武蔵野北 歴史散策シリーズ①』

今日、11月24日は「武蔵野市平和の日」。武蔵野市は、戦禍により犠牲になられた方々を悼み、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継ぎ、国際相互理解の推進に努め、恒久平和の実現を目指すことを誓うために、この日を平和の日として制定しました。

今回このテーマを取り上げるのは、本校との関わりがあるので、紹介することにしました。

アメリカのB29爆撃機による武蔵野市内への初空襲があったのが、昭和19年11月24日。当時、武蔵野北の地は、「零戦」や「隼」等のエンジンを製作する中島飛行機工場があったのです。

右の写真をよく見てください。B29の尾翼の後方が本校の敷地です。現在の正門前には武蔵境駅からの電車の引き込み線が通り、ちょうどグラウンド辺りを横切っていました。

中島飛行機は東洋一と言われるほど大規模な軍需工場で、敷地56万平方メートル。米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに空襲は9回を数え、工場関係者200名以上が犠牲となり、周辺地域でも多くの住民が巻き添えとなりました。



武蔵野陸上競技場
(旧中島運動場)

この辺が武蔵野北

【武蔵野を空襲するB29爆撃機(1945年8月8日)】

武蔵野北でも以前、空襲時の不発弾

が発見され、処理のために学校が休校になったこともあったとのこと。

この工場で働いていたのは学徒勤労員で強制的に集められていた女子学生たち。彼女たちの空襲時の証言。『11月24日の空襲は忘れません。警報が鳴って、地下道に入り、目を閉じ、耳をふさいだ。大きな音が響いてきた。防空壕で生き埋めになった学生がいたとか、死体が山積みだったとか後で聞いた。それでも戦争ってね、生死に対して鈍感になる。他人に同情できなくなる。鈍感になれた者だけが生き延びる。』

戦後76年を迎えた今年、私たちは新型コロナウイルス感染症という未曾有の困難に直面しています。この困難を乗り越えるためにも、改めて平和な社会に築かれた国際協力の重要性を認識していかねばなりませんね。そして何より命の大切さを認識しましょう。

今日も飛行機が本校テニスコートに侵入しました！！ 中央公園で興じる人たちの紙ヒコーキでしたけど…